

さつま町副町長の紹介

7月8日の議会で副町長の人事案件が提案され、元議
会事務局長の和気純治氏が、賛成多数で同意されました。
副町長1人制は、日高町長の選挙公約に基づくもので
す。



和気純治 副町長

和気 わき すみはる
純治 (さつま町久富木)

昭和25年1月5日生 (59歳)

昭和47年宮之城町職員に採用

宮之城町企画課長、開発課長、薩摩東部地区合併協議

会事務局長、さつま町企画広報課長、議会事務局長

などを歴任

和気副町長あいさつ

自然豊かなさつま町の良さを活かし「町民が夢と希
望のもてる元気な住みよいまち」実現のために、誠心
誠意努力してまいりますので、皆さまのご指導とご協
力をよろしくお願いします。

さつま町選挙管理委員の紹介

6月17日の議会で、選挙管理委員が決まりました。委員は次の方です(敬称略)
任期は、平成21年6月17日から平成25年6月16日です

職名・氏名(敬称略)・年齢
地区名

■委員長

新森 一教 (71歳)

宮之城屋地



■職務代理者

濱田 敏朗 (72歳)

湯田



■委員

久保 司 (66歳)

中津川



■委員

中王子 康雄 (68歳)

紫尾



■補充員

小松園 善久 (76歳) 広瀬
桃 蘭 トチエ (69歳) 求名

水流 速雄 (61歳) 神子
坂元 満秋 (61歳) 船木

全国消費実態調査に

ご協力を

Qどのような調査ですか？

全国消費実態調査は、国民の消費実態を家計の所得、消費、資産の3つの側面から総合的に把握することを目的とし、福祉・消費者行政の基礎資料になります。

この調査は、7月中に調査地域内の全世帯を調査員が名簿作成のためお伺いします。その後、8月から国の定めた抽出方法により選ばれた世帯へ調査員が調査票の記入依頼に伺い、9月から11月までの3ヶ月にわたり、調査を実施します。調査員がお伺いした際にはご協力をお願いします。

Q調査員はどんな人ですか？

統計調査員は、調査対象の方々を訪問し、調査票の記入や回収・点検といった基本的で重要な部分を受け持っています。

全国消費実態調査の調査員は市区町村長の推薦に基づいて、都道府県知事が任命した地方公務員です。

調査員には「調査員証」が交付され、必ず携帯しています。

Q調査の結果はどのように利用されるのですか？

例えば、高齢者への年金給付額を検討する際、高齢者の消費支出はどれくらいなのかを把握する必要があります。

一方、現役世代の保険料負担額を検討する際にも、消費状況の把握が必要です。

そのため、年金制度についての検討資料として、厚生労働省では、全国消費実態調査の結果を用いています。

また、OECD（経済協力開発機構）の基準による国際比較可能な所得格差の集計や、家賃負担や住宅ローン返済の実態の把握など様々な場面で利用されています。

Q個人情報保護は

保護されるのですか？

全国消費実態調査により集められた個人情報、統計法によって保護されています。具体的には、統計調査員などの統計調査に携わる者に厳格な守秘義務が課されているほか、お尋ねした氏名などは外部の人の目に触れることのないように厳重に保管され、調査が完了したのち溶解処分するなど、厳重に個人情報保護されています。

山崎郷御飯屋跡が

さつま町指定文化財に指定されました

お飯屋と地頭飯屋跡について

1615年、島津家77万石の薩摩藩は、江戸幕府の「一国一城令」（大名の居城以外の城は取り壊せという命令）により、鹿児島市にある鶴丸城以外の城を全て破却した。それに代わるものとして、外城（とじょう）と呼ばれる「麓」を置き、「御飯屋」や「地頭飯屋」といわれる在地役所を設置した（現在でたとえるならば市町村役場みたいなものです）。

私領主や地頭は鹿児島城下に住んでいたため、現地の行政は地元で行っていたようです。県内では出水や知覧の武家屋敷などが麓として有名です。



当時の雰囲気を残す門



移転した際に植えたといわれる銀杏の木

山崎郷

山崎郷は、山崎・久富木・二渡・白男川・泊野の五村からなり、江戸時代は、薩摩藩の直轄地でした。藩から任命された地頭が治めていましたが、後には鹿児島城下に住み、任期中に数回しか任地に来なかったため、現地の行政は地元で行っていたようです。

地頭飯屋は、最初は別の場所にありましたが、文化11年（1814年）に今の山崎小学校前に移して明治維新まで続いたようです。

移転したとき植えたといわれる銀杏と門が今も残っており、一帯は麓の雰囲気が多数残っています。平成21年6月、さつま町にとって貴重な文化財と認められ、さつま町指定文化財（史跡）に指定されました。